SOPHIA U
FOR OTHERS, WITH OTHERS

上智大学通信

第477号　2024年（令和6年）6月10日発行

編集・発行
上智学院総務局広報グループ
〒102－8554　東京都千代田区紀尾井町7－1
電話：03－3238－3179　FAX：03－3238－3539
www.sophia.ac.jp
[Facebook] www.facebook.com/SophiaUniversity
[X]@SophiaUniv_JP

INDEX
2 学生総務担当副学長寄稿／アフリカ Weeks ／留学フェア開催お知らせ
3 新名誉教授、新任教員紹介
4 上南戦実行委員長インタビュー

日本で
はじめて開催

フランス発祥の視覚障害者スポーツ啓発イベント

アスリートトークショーやパラスポーツ体験などを実施

パリ2024に向けた視覚障害者スポーツ啓発イベント「セシツアートウキョウ」を実施し、1000人以上が参加した

5月12日に、フランス国外で初となるフランス発の視覚障害者スポーツ啓発イベント「セシツアートウキョウ（CÉCITOUR TOKYO）」が四谷キャンパスで開催された。主催は本学と本学学生団体のソフィア オリンピック・パラリンピック 学生プロジェクトGo Beyond。セシツアーとは、視覚障害者スポーツの普及と関係者ネットワークの発展を目指した移動型イベントだ。今回同イベントを主催するフランスハンディスポーツ連盟のブラインドスポーツディレクターであるシャルリ・シモ氏の協力を得て、日本版セシツアーを実現する運びとなった。

オープニングセレモニーでは、Go Beyondの学生が力強く開会宣言を行い、その後はブラインドスポーツ体験やアスリートトークショー、企業・団体によるプロモーションなど視覚障害者支援に関する企画に加え、フランス語学科サークルによるチーズパーティーなどの催しが随所で実施された。

第3体育場では、イベントの目玉企画の一つである「セシリンピック」が行われた。スペシャルゲストとして元ブラインドサッカー日本代表の加藤健人選手を迎え、約100人の参加者がブラインドサッカーを体験した。最初はアイシェードという目隠しを装着するとボールに触れることすら難しかった参加者も、仲間の声かけや手拍子など音によるサポートで徐々に上達し、見えない世界でサッカーを楽しんだ。

クロージングでは、会場にいる全員がパリ2024大会のオフィシャルダンスを踊り、オリンピック・パラリンピックへの期待を膨らませた。当日は1000人以上が来場し、参加者は多くの刺激を受けた一日となった。

今回同イベントを主催した、Go Beyond代表の濵井南咲希（外英4）さんは、「誰にとってもインクルーシブなセシツアーを開催するにあたり苦難の連続でした。しかし、当日は参加者および出展団体にとって、新たな交流の機会や情報交換の場となっている様子を目にすることができ、本イベントが人々をつなぐインフラとなったことを実感できました」と振り返った。

アイシェードをしながらミニゲームを行った

全盲ドラマー酒井響希さんのドラム生演奏

ブラインドスポーツの今後について議論した

ブラインド柔道の競技体験

インドなどアジア5カ国の高校生が理工学部のラボツアーと模擬授業に参加

5月22日、インド、韓国、タイ、ブルネイ、キルギスの各国から選抜された高校生69人が、科学技術振興機構（JST）「さくらサイエンス・ハイスクールプログラム」の一環として本学を訪れ、理工学部のラボツアーや模擬授業などに参加した。

各国からの高校生を迎えた理工学部には、地球環境問題というグローバルイシューに挑むために、授業・試験・レポート・研究指導・論文執筆のすべてが英語で行われる「グリーンサイエンスコース」と「グリーンエンジニアリングコース」が開設されており、外国人留学生と日本人学生が共に学んでいる。

ラボツアーでは、教員と学生が協働で高校生を研究室に迎え入れ、日頃の研究内容を紹介したり、実験装置や器具を見せたり、使い方を教える場面もあった。また高校生からの質問にも学生が丁寧に答え、最後に一緒に記念撮影をする研究室もあった。

情報理工学科のゴンサルベス　タッド教授による模擬授業「Current Status and the Future Possibilities of AI」（生成AIの現状と今後の可能性）では、生成AIの可能性から弱点にまで話が及び、好奇心旺盛な高校生たちから多数の質問が寄せられた。

今回の高校生訪問受入について理工英語コース運営委員長の近藤次郎教授（物質生命理工学科）は、「サイエンスに興味をもつ高校生たちが、ラボツアーのあとに目を輝かせながら見学した研究室の話を友達とシェアしていたのが印象的でした。我々教員や学生たちにとっても、自分たちの日頃の研究成果が若者たちの好奇心に火をつけ、次世代のグローバル人材の育成に貢献できる喜びを感じることができる一日になりました」と感想を語った。

ラボツアー中の記念撮影

実験装置の使い方を教わる高校生

JST「さくらサイエンス・ハイスクールプログラム」は、海外の高校生に日本の科学技術への関心を高めてもらい、日本の大学・研究機関や企業が必要とする海外の優秀な人材が成長することで、グローバルな科学技術の発展に貢献することを目的としている。2022年度までの9年間で35,000人超の青少年を招聘した。

髙祖敏明元理事長が旭日重光章を受章

学校法人上智学院元理事長の髙祖敏明名誉教授が、令和6年春の叙勲にて「旭日重光章」を受章した。旭日重光章は、文化やスポーツ、科学技術の振興、環境保全など、社会のさまざまな分野における功績の内容に着目し、顕著な功績を挙げた個人に日本政府より授与される。

今回の受章は、多年にわたり上智学院理事長として、また聖心女子大学学長、文部科学省中央教育審議会専門委員などの要職を歴任してリーダーシップを発揮し、私立学校の発展と振興に尽力したことが評価されたことによる。5月9日には、宮中で行われた伝達式において内閣総理大臣から勲章・勲記が授与され、天皇陛下に拝謁してお言葉を賜った。

髙祖名誉教授は、1976年に本学文学部教育学科助手として着任。79年同学科講師、84年同助教授、91年教授。2005年からは学部改組に伴い、総合人間科学部教育学科教授。12年特別契約教授、17年特任教授、19年より本学名誉教授。

1993年から96年まで文学部長、95年から2012年までキリシタン文庫所長、1999年から2018年まで上智学院理事長、03年から09年まで上智短期大学学長、19年から23年まで聖心女子大学学長などを歴任した。

プロジェクトリーダーと振り返る

第8回アフリカWeeks

5月13日から28日まで、「第8回上智大学アフリカWeeks」が開催された。本学では、国際社会でより一層存在感を増すアフリカを本学のグローバル化推進の戦略的地域と位置付け、アフリカ開発銀行や現地教育機関との連携協定締結、アフリカ研究の推進など、教育・研究交流を活発に展開している。今回のアフリカWeeksでは、公募で集まった学生有志が司会や通訳補助などを務め、講演会やセミナーなどの企画をサポートした。

アフリカ地域の研究者であり、各企画を主導し成功に導いたSophia Future Design Platform推進室の山﨑瑛莉氏と、学生リーダーとして企画の取りまとめに尽力した稲川翔子さん(総グ4)と太田珠々さん(法地3)にアフリカWeeksを振り返ってもらった。

アフリカ外交団から感謝状を受け取る曄道学長
(24日、2024アフリカ・デー記念講演会にて)

日本とアフリカの若者が未来に向け議論
(27日、AFRI CONVERSE 2024 in Sophia)

SFDP推進室
University Education Administrator
山﨑　瑛莉氏

本学のアフリカWeeksは学生をはじめアフリカに関心がある方々と、アフリカ出身の方や関係する人たちとの豊かな出会いの場を創出することで、アフリカに関心をもち、さらに行動するきっかけとなる機会とすることを目的に開催しています。

今年は、アフリカ・デーを共催した在京アフリカ外交団、国際機関、民間、NGOなどさまざまなアクターの方々との協働と、学生の主体的な参加を促すことで、アフリカが従来からもつ多様性や、若者の活躍を中心とした今後の可能性を感じられるものとすることを強く意識しました。これは、本学のアフリカWeeksを、多層的・多様な学びを実現するものとして位置付けていることにもよります。

実施後は、「上智大学における幅広いアフリカ研究や活動を知ることができた」(高校生・在学生)という感想や、「アフリカの可能性に期待する若者の関心の高さが伺えた」(外交団・国際機関)といった声をいただきました。

本学では、アフリカを研究領域に含める研究者ネットワーク形成により、さらに多様な切り口で研究・教育できる体制構築を進めています。 また、来年は第9回アフリカ開発会議(TICAD9)を控えることから、アフリカへの関心もさらに高まっています。今後のアフリカWeeksも、これらの展開のさらなる可能性を切り開いていける企画にしていきたいと考えています。

総合グローバル学部
総合グローバル学科4年
稲川　翔子さん

大学4年目で新しいことを始めたいと思い参加を決めました。さまざまな企画が同時進行で動いていたので、企画の進捗やメンバーの状態を把握するのは大変でしたが、アフリカの自由と闊達さを感じ、楽しく活動させていただきました。アフリカは今まで何も知らなかった人でも、知ればハマっていける魅力のある地域だと思います。この経験を活かし、まず今夏のアフリカ渡航と、同地域との自分の関わり方を考えようと思っています。

法学部
地球環境法学科3年
太田　珠々さん

自身がアフリカ(コートジボワール)に渡航した際感じた「アフリカの楽しさ・可能性」を多くの人と共有したいと考え、本イベントに参加しました。アフリカと一言でいっても多様な文化・背景があり、アフリカWeeksで伝える「アフリカ」が一面的なものになっていないか、気をつけていました。そして今回、自分が知らないアフリカがまだまだあるんだと実感しました。今後も知り合えた仲間とともにアフリカについて学び続けます。

◆公式ウェブサイトにてアフリカWeeksイベントレポート掲載中

SUP　上智大学出版　新刊紹介

■『エチオピアの歴史を変えた女たちの肖像』
テケステ・ネガシュ【著】
眞城百華、石原美奈子【共訳】
(2200円＋税)

ぎょうせいオンラインショップ、全国主要書店および紀伊國屋書店上智大学店で販売中。

ぎょうせいオンラインショップはこちらから

ソフィアの視点

「よい就活は、学びを止めない」

学生総務担当副学長　永井　敦子

現在日本は、深刻な人材不足に悩んでいます。それでも就職活動が早期化する背景には、優秀な人材の確保が急務な雇用者側の焦りがあるのでしょう。就職活動が大学での学びの時間を奪わないよう、政財界には一定の歯止めをかけていただきたいですが、雇用も国際化する現在、国内規制が人材の国外流出の要因となる不安もあるのでしょう。こうした現状下で大学での学びと就職活動を両立させるには、どうすればよいでしょうか。

現在、3年次の夏期休暇中のインターンシップを希望すれば、その選考が行われる3年次の春学期には、事実上就職活動が始まります。つまりこの時期にはすでに、自分が大学で何を学び、その目的ややりがいが何なのかを、自分の言葉で説明できなくてはなりません。本学では入学時から専門とする学科を選択しますし、同時に学部横断的に参加できる多様な教育プログラムもあるので、初年次からそうした学びの環境を、好奇心と主体性をもって活用していただきたいです。

次に多くの学生が熱心に就職活動に取り組む3年次の秋からの数ヶ月はどうでしょう。最近は終身雇用のイメージを持って就職するより、近い将来の起業や海外での就労も視野に入れつつ社会に出る学生も少なくないようです。目前の就職がひとつの通過点であるなら、より広い視野からつねに自分の価値観や世界観を問い、自分を育て続けなくてはならないはずです。

そして就職活動が終われば卒業研究や卒業論文の仕上げが待っていますが、同時に就活後に空いた時間をアルバイトにあて、その対価を卒業前の活動資金や新生活の準備にあてる学生も目立ちます。もちろんそれ自体悪いことではありませんが、社会人になった途端に自信喪失に陥らないためには、この時期、自分の強みを伸ばし、弱みを補うための自己への投資も必要でしょう。

こう考えると、卒業要件科目の修了や企業からの内定獲得だけをゴールとしない、未知の世界や考えかたとの出会いを、人間や社会のより深い理解と行動の選択につなげてゆくための学びは、すでに大学入学時から始まっていることに気づきます。むしろ大学時代こそ、つねにそうした学びを止めないための術を体得する、重要な時期ではないでしょうか。

学生の皆さんがいつか自分の人生を振り返ったとき、仕事を通して少しでも社会をよくできた、他の人に寄り添えたという実感が持てることを、心から願っています。

6月17日～21日留学フェア開催

最新の留学情報にふれる1週間

グローバル教育センターでは、6月17日から21日までの5日間、留学フェアを開催する。留学に興味・関心のある学生や既に留学が決定している学生まで幅広く参加を呼びかけ、留学に関するさまざまな情報を提供する。

期間中は、昼休みの時間帯に6号館の教室で対面形式の日替わりセッションを実施する。週前半は、留学制度説明、留学カウンセラーおよび英語学習アドバイザーによる事前準備講座やTOEFLの説明、大学の留学制度を利用した学生の体験談、協定校からの外国人留学生の自大学紹介、留学と就職活動に関するセッションを行う。

後半は、留学制度を活用した学生による座談会を予定。世界各地で交換留学やインターンシップ科目に参加した学生たちが登壇して、在学生からの質問に自らの経験を生かして答えていく予定だ。また、6号館1階の智恵の樹前広場でポスター展示を行う。

昨年の経験者座談会の様子

フェア担当者は、「多方面からの情報が一度に手に入ることに加え、留学経験者の生の声を聞くことが出来るこの機会に、留学に少しでも興味のある学生にぜひ足を運んでほしい」と話す。会場や詳細は、LOYOLA掲示板などで確認できる。問い合わせは2号館1階グローバル教育センターへ。

留学フェアセッションスケジュール（予定）

日程	時間	内容
6/17(月)	12:45-13:20	留学制度概要説明 留学カウンセラー・英語学習アドバイザーによる、留学への準備と TOEFL について
6/18(火)		交換留学について知ろう！～協定校からの留学生や留学を経験した先輩学生の声～
6/19(水)		留学と就職活動
6/20(木)		交換留学・インターンシップ経験者との座談会①
6/21(金)		交換留学・インターンシップ経験者との座談会②

※最新のスケジュール・会場等は LOYOLA 掲示板でご確認ください

2024年度 名誉教授称号記授与式

新たに13人の名誉教授が誕生

5月16日、2024年度上智大学名誉教授称号記授与式が2号館17階で行われた。今年度は13人の新名誉教授が誕生し、曄道佳明学長から一人一人に称号記が授与された。

称号記授与に続いて、新名誉教授を代表して、増井志津代名誉教授が挨拶を行った。

授与式のあと祝賀会が行われ、学長、理事長、副学長の他、現名誉教授も加わり、新名誉教授との親睦を深めた。

今年度の名誉教授は次のとおり（所属は在職時）。

佐久間勤（神学部神学科）、長田彰文（文学部史学科）、増井志津代（同英文学科）、メヒティルド・ドゥッペル（同ドイツ文学科）、中村朝子（同ドイツ文学科）、出口耕自（法学部国際関係法学科）、原強（法学研究科法曹養成専攻）、岩崎政孝（同）、竹田陽介（経済学部経済学科）、ケネス・オキモト（外国語学部英語学科）、小塩和人（同）、申鉄龍（理工学部機能創造理工学科）、笹川展幸（理工学研究科理工学専攻）。

学長、理事長と新名誉教授のみなさん

2024年度 新任教員紹介

4月に着任した専任、特任、嘱託および実務家教員38人（助教以上）を以下に紹介する。（敬称略）

法学研究科

法曹養成専攻

小舟賢准教授
研究分野：行政法
最高学位：一橋大学博士（法学）

角田雄彦実務家教員（教授）
研究分野：弁護士実務（民事・刑事）、刑事訴訟法、少年法、国際紛争解決法、民事訴訟法
最高学位：一橋大学博士（法学）、神戸大学博士（法学）

文学部

史学科

中村江里准教授
研究分野：日本近現代史
最高学位：一橋大学博士（社会学）

英文学科

小河舜助教
研究分野：英語史、古英語
最高学位：立教大学博士（文学）

ドイツ文学科

大田浩司教授
研究分野：ドイツ叙情詩、近代ドイツ美学
最高学位：ギーセン大学博士（Ph.D.）

クリストファー・シェレター助教
研究分野：日独比較文学・文化論
最高学位：慶應義塾大学博士（文学）

新聞学科

佐藤卓己教授
研究分野：メディア文化学（メディア史、大衆文化論、ドイツ新聞学）
最高学位：京都大学博士（文学）

総合人間科学部

心理学科

西村玲有特任助教
研究分野：臨床心理学、人格心理学、心理アセスメント
最高学位：上智大学博士（心理学）

社会福祉学科

安井優子特任助教
スピリチュアリィとソーシャルワーク、死生学
最高学位：関西学院大学博士（人間福祉）

看護学科

﨑山貴代教授
研究分野：母性看護学、助産学
最高学位：聖路加国際大学博士（看護学）

大河原啓文助教
研究分野：老年看護学
最高学位：慶應義塾大学博士（看護学）

経済学部

経済学科

橋立洋祐特任助教
研究分野：経済学（ミクロ経済学・意思決定理論・行動経済学・実験経済学）
最高学位：東京大学博士（経済学）

経営学科

大竹恒平准教授
研究分野：マーケティング・サイエンス
最高学位：慶應義塾大学博士（工学）

地主純子助教
研究分野：会計学、財務会計論、会計情報論
最高学位：一橋大学博士（商学）

外国語学部

英語学科

坂下史子教授
研究分野：アメリカ研究、アフリカ系アメリカ人の歴史と文化、アメリカにおける社会正義の問題
最高学位：ミシガン州立大学博士（アメリカ研究）

竹田安裕子助教
研究分野：米国史
最高学位：カリフォルニア大学アーバイン校博士（歴史学）

ドイツ語学科

ダニエラ・タテイシ嘱託講師
研究分野：ドイツ語教育へのオーラルアプローチ
最高学位：ルートヴィヒ・マクシミリアン大学ミュンヘン修士（日本学）

ポルトガル語学科

グスターボ・メイレレス助教
研究分野：移民研究、在外ブラジル人、沖縄県系移民
最高学位：上智大学博士（国際関係論）

国際教養学部

国際教養学科

金一珠助教
研究分野：移民、市民権、ジェンダー、比較研究
最高学位：マギル大学博士（社会学）

ハンナ・ホルツマン助教
研究分野：Global and transnational film history, theory, and aesthetics
最高学位：バージニア大学博士（フランス研究）

理工学部

機能創造理工学科

金子隆威特任准教授
研究分野：物性物理学
最高学位：東京大学博士（工学）

グローバル教育センター

梅宮直樹教授
研究分野：国際教育協力分野
最高学位：東京工業大学博士（学術）

大平和希子特任助教
研究分野：アフリカ政治、地域研究（ウガンダ）
最高学位：東京大学博士（国際貢献）

基盤教育センター

相田豊特任助教
研究分野：文化人類学
最高学位：東京大学博士（学術）

今若太郎特任助教
研究分野：スポーツバイオメカニクス、スポーツパフォーマンス
最高学位：国士舘大学博士（体育科学）

小俣智史特任助教
研究分野：ロシア思想
最高学位：早稲田大学博士（文学）

工藤龍太特任助教
研究分野：近代日本における武道の展開過程に関する研究
最高学位：早稲田大学博士（スポーツ科学）

高橋敦志特任助教
研究分野：教科教育学、教育工学、教育学
最高学位：東京学芸大学博士（教育学）

高橋駿仁特任助教
研究分野：18世紀フランス思想
最高学位：一橋大学博士（社会学）

濵野寛子特任助教
研究分野：認知言語学、認知意味論
最高学位：京都大学博士（人間・環境学）

由井恭子特任助教
研究分野：国文学、国語教育
最高学位：大正大学博士（文学）

言語教育研究センター

古田耕史准教授
研究分野：イタリア文学
最高学位：東京大学博士（文学）

横本勝也准教授
研究分野：TESOL、応用言語学、教師認知
最高学位：ブリストル大学博士（教育学）

エリサ・アコスタ嘱託講師
研究分野：グループ・ダイナミクス、自律学習、第二言語習得、異文化間コミュニケーション
最高学位：ケント州立大学修士（TESOL）

レジナルド・ジェントリー嘱託講師
研究分野：第二言語習得、TESOL、第二言語ライティング
最高学位：ハワイ大学マノア校修士（第二言語研究）

張彤嘱託講師
研究分野：中国語教育、身体教育
最高学位：お茶の水女子大学修士（人文科学）

峰松愛子嘱託講師
研究分野：応用言語学、英語教育
最高学位：コロンビア大学修士（TESOL）

米澤昌子嘱託講師
研究分野：日本語学、日本語教育
最高学位：同志社大学修士（国語学）

訃報

フランツ-アントン・ナイヤー名誉教授逝去

4月19日死去。95歳。1928年生まれ。68年ジョージタウン大学大学院修士課程修了。65年本学外国語学部ドイツ語学科講師、70年同助教授、76年同教授。99年から本学名誉教授。

85年1月～89年3月外国語学部ドイツ語学科長、86年4月～89年3月外国語学部人文副専攻主任を務めた。

著書に『Deutsch und Japanisch im Kontrast. Bd.1』共著（J.Groos）など。専門は日独比較音声学、ドイツ語、ドイツ語史。

昨年果たせなかった単独総合優勝を目指す

第65回上南戦

7月5日～7日、南山大学で開催

1960年の第1回大会から半世紀以上続く伝統の一戦、上南戦(上智大学・南山大学総合対抗運動競技大会)が今年も行われる。

同じカトリック大学で名古屋にある南山大学と、互いの大学を会場にして対抗試合や文化系団体の交流を図るもので、数十種目の競技を行い総合成績で勝ち数が多い大学が優勝となる。第65回となる今回は、南山大学を主催校として7月5日から7日の3日間にかけて開催される。

実行委員長の瀬山大稀さん

上南戦実行委員会委員長の瀬山大稀さん(法国3)に、今年に懸ける意気込みを聞いた。

▼今年のスローガンや目標は

スローガンは「Regain」です。前回大会では、両校総合優勝という悔しい結果でした。今年は必ずや単独総合優勝を果たし、強い上智を取り戻すという我々の熱い思いが込められています。1、2勝差での優勝ではなく、「上智が勝ち切った」としっかり言えるような結果を目指します。また、実行委員会の立場としては、上南戦が大きなトラブルなく運営できることを目標としています。特に昨年はスケジュール面で幾つか問題があったため、その反省を生かし、進捗管理には特に気を使っています。

▼今年の上南戦の見どころは

オープニングゲームとなるハンドボールの試合をぜひ見てほしいです。観客数も多く、一番の盛り上がりを見せるため、まずはここから見てほしいです。また、ラグビーも毎年結果が良いので、応援も盛り上がると思います。

▼今年は特にグッズに力を入れているそうですが

グッズの企画開発にはかなりこだわりました。上南戦のラベルのミネラルウォーターを作ったり、タオルのデザインを大幅リニューアルしたりしました。特にタオルは、これまではえんじ色がベースカラーでしたが、今年はピンク色のデザインを採用したところ、各団体への事前の発注数調査段階で例年の2倍近い発注を頂けています。

▼所属する卓球部の試合の見どころは

卓球は試合が男女で分かれているので、言い換えると勝敗が2競技分あります。そのため、全体への影響が大きいので、男女両方とも勝ち、単独総合優勝へとつなげたいです。私は団体戦に出るので、チームにしっかりと貢献したいと思います。

▼最後に、委員長として選手や応援してくれる上智生へメッセージをお願いします

試合に出る選手たちにとっては、自分たちの1勝が上智の単独総合優勝に大きく関わります。私たちも全力で応援しますので、精一杯頑張ってください。試合に出ない選手たちも、自分たちのサポートが必ずよい結果につながると思います。我々と一緒にサポート面でも頑張っていきましょう。

また、上南戦は体育会学生だけのイベントと思われがちですが、上智大学として南山大学と試合を行うので、体育会以外の学生の皆さんに少しでも関心を持っていただきたいです。皆さんの友人や知人に、体育会学生がいる場合は、「上南戦、頑張って！」と一言声をかけてくれたら本当に嬉しいです。ぜひとも応援をよろしくお願いいたします。

詳細は上南戦特設サイトから

リニューアルした上南戦タオル

第65回上南戦タイムスケジュール(試合時間)

日程	場所　時間	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
6月15日	プール					水泳 11:00～17:00										
6月16日	プール					水泳 11:00～16:00										
6月29日	澄心弓道場							弓道女子 13:00～15:00								
6月30日	澄心弓道場					弓道男子 11:00～15:40										
7月5日	メインアリーナ												ハンド 18:30～20:00			
	グラウンド												ラグビー 18:30～20:00			
	瀬戸市民球場＊									硬式野球 15:00～21:00						
7月6日	体育館				バレー女子 10:00～12:30		バレー男子 (OB:12:30～13:00) 14:30～17:00						バドミントン 17:50～19:50			
	メインアリーナ					バスケ女子 11:00～13:30			バスケ男子 14:30～16:30 (OB:17:00～19:00)							
	柔道場								柔道 14:00～14:45							
	剣道場					剣道OP戦 10:20～14:00			剣道 14:00～15:00				少林寺合気道 18:30～19:10			
	テニスコート西				軟式庭球男女 10:00～16:00											
	テニスコート北			硬式庭球男子 9:30～18:00												
	グラウンド		ラクロス男子 (1年:8:10～9:40) 10:50～12:50						アメフト (ｴｷｼﾋﾞｼｮﾝ:14:30～15:30) 16:30～19:00							
	レイクグリーンゴルフクラブ＊			ゴルフ 9:30～16:00												
	愛知森林公園＊				洋弓 10:00～15:30											
	美浜町運動公園陸上競技場＊					陸上 10:30～14:30										
	瀬戸市民球場＊												準硬式野球 18:00～21:00			
	邦和みなとスポーツカルチャー＊												アイスホッケー 22:15～23:55 (OB:24:15～25:55)			
7月7日	体育館				フェンシング 10:00～12:00											
	卓球場				卓球男子 10:00～12:30											
					卓球女子 10:00～12:30											
	剣道場				空手道 10:00～13:00											
	グラウンド			サッカー 8:50～10:50			ラクロス女子 11:40～13:40 (1年:14:00～15:30)									
	テニスコート西			硬式庭球女子 8:40～14:40												

＊学外施設　※少林寺拳法は上智合気道と合同

ひと　歴史と芸能を通して見えてきた志

歌、芝居、舞、美術などさまざまな要素が一体となり、古くから観る者を楽しませてきた伝統芸能「能」。700年以上の歴史を持つ日本最古の演劇に魅了され、由緒ある芸能を未来に継承したいと日夜稽古に励む学生がいる。松本怜生さん(国教2)だ。

国際教養学部　国際教養学科2年
松本　怜生さん

7年前の夏、初めて見た能の舞台で、その身一つで景色や心情を表現する斬新さに心を奪われた。自身も舞台に立ちたいと宝生流能楽師の藪克徳氏に師事し、技法や心意の手ほどきを受けてきた。「細やかな所作、迫力のある演技、力強い声楽、どれもまだまだ先生の足元にも及びませんが、いつか熟達できるよう修行の日々です」。

小さい頃から歴史が好きだった。「人間がいにしえの時代からどう生きてきたのか、社会や文化がどのように成り立ってきたのか、そういったことを考えるととてもワクワクしていました」。

アメリカ人の父親と日本人の母親をもつ松本さんは、自身のルーツに思いをはせることも多いという。「はるか昔から受け継がれてきた命のバトン。今を生きる自分の役割やアイデンティティについて、よく自問しています」。

キャンパスでは、宗教史や哲学史に関心を寄せる。各時代、各地域において諸宗教がどのように発展してきたのか。人間の思想面からアプローチすることで、現代にも通ずる普遍的な価値が見えてくるという。「人生の目的、人類と自然の関わり、そして価値あるものを未来に遺そうとする営み、いずれも古代から模索されてきたもので、現代を生きるうえでも避けては通れません」。

歴史を学び、伝統芸能を修めることで、人生の志もおぼろげながら見えてきた。

「能をとことん突き詰めて、自分が納得できる演舞を披露することが、伝統文化へのリスペクトになると思っています。小さい頃から夢中になっていた歴史。先人の思いや文化を未来に伝えていくことが、自分の生き方なのかなと思っています」。

「上智地球市民講座」

2024年10月開講
7月募集開始

上智地球市民講座
社会変革の時代に求められる"教養"を身につける全19講座が開講予定

10月から「上智地球市民講座」秋学期が開講します。
新たな学びにチャレンジしたい方の積極的な参加をお待ちしています。

- ●対　　象：社会人、大学生、高校生はじめ、すべての方
- ●開講時期：秋学期10～11月
- ●開講形態：対面・オンライン・ハイフレックスのいずれか
- ●講 座 数：秋学期19講座　１講座講義４回(１回90分)
- ●受 講 料：１講座12,000円／割引対象者　１講座10,000円
- ●申込期間：2024年７月１日(月)～

講　師	タイトル
神学科 特別契約教授 小山　英之	戦争システムから平和システムへ ー植民地時代の遺産としての 民族紛争と宗教を考えるー
国際関係法学科 教授 岡部　みどり	難民問題と国際政治 ー歴史と現在ー
総合グローバル学科 教授 前嶋　和弘	アメリカと世界、そして日本
総合グローバル学科 教授 丸井　雅子	文化遺産からみる グローバルとローカル
新聞学科 特別契約教授 水島　宏明	ネット時代における テレビ報道の最前線
物質生命理工学科 教授 陸川　政弘	実生活に根ざしたサスティナブル マテリアルとエネルギー
教育学科 教授 相澤　真一	日本社会の格差と教育
経済学科 准教授 倉田　正充	AIの社会への貢献と課題 ー貧困問題編ー
物質生命理工学科 教授 竹岡　裕子	環境と健康をつくる サスティナブルマテリアル
物質生命理工学科 教授 堀越　智	生活の中のサスティナブル・ イノベーション

講　師	タイトル
基盤教育センター 特任助教 讃井　知	異常気象も見据えた防災のあり方
総合グローバル学科 教授 田中　雅子	「学ぶ」から「動く」へ ー国際人権規範を使って、自分の 暮らしをとらえなおしてみようー
史学科 教授 北條　勝貴	歴史から現在・未来を読み解く ーパブリック・ヒストリーの 現場からー
社会学科 教授 芳賀　学	時事トピックから現代社会を読み解く ーお祭りと新宗教の問題を中心にー
経済学科 教授 川西　諭	行動経済学者と考えるこれからの 資本主義社会での働き方・生き方
神学科 教授 武田　なほみ	知恵を求めて ー変革の時代を生きる心と その静けさー
社会学科 特別契約教授 藤村　正之	人生100年時代、人びとの人生 ドラマはどう変わってきたか ー大家族からおひとりさまへー
社会学科 教授 田渕　六郎	持続可能なまちづくり
カトリック・イエズス会センター イエズス会神父 山内　保憲	個人と組織の「自己変革」と イノベーションのプロセス ーイエズス会の精神性が教える、 個人・組織・社会を根本から 変容させる方法論ー

※詳細・お申込はこちらから